

座 談 会

日時：平成14年9月30日(月) 午後2時から4時

場所：綾瀬市役所 視聴覚室(6階)

出席者：

綾瀬小学校旧職員

池田武治氏 比留川本・氏 加藤マサエ氏 鹿島孝子氏

宮崎英子氏

教育研究所

岡田敏樹講師 加藤吉裕 技術嘱託 池田正 教育相談員

清田敏秀 研究員 金井光徳 所長 神谷泉 指導主事

内藤和子 指導主事 坂本直子 市史編集係

金 井 本日は天候の悪い中、わざわざお出かけくださいましてありがとうございます。

私たちも微力ですが、綾瀬の教育史作りに向けて色々と関係資料を整理し残してまいりたいと思っております。

今日は皆さんから貴重なご意見をいただき、今後出版物としてまとめ活用していきたいと考えておりますので、よろしくお願います。

神 谷 今日は疎開関係のことについて、皆さん方からお話を聞く機会を設けました。

綾瀬は疎開を受け入れた方で、その当時の苦労とかエピソードとかがあったのではないかと思います、現在そのような資料が見当たりません。

そこで皆さんに、綾瀬が学童疎開を受けた当時の事を思い起こしていただいて、お話し願えればと思っております。



座談会を始めるまえに、今日新たに座談会に参加いただいた宮崎英子先生を紹介させていただきます。

旧姓が加藤で吉岡の正福寺の付近に住んでおられたということとです。

お父さんが当時役場に勤めていて、疎開関係の事務などもやっていたのではないかと思います。

縁故疎開の方も何人が加藤さんの所に居られたということとです。

宮 崎 諏訪小学校の父兄の方は横須賀中央の高台に住んでおられました、強制疎開ということで家を壊されてしまわれたということとです。

それで、父が疎開関係の仕事をしていましたものですから「それでは狭いけれど、家にいらつしやい」という事で。昔はみんなそんな風でした。

それで、その疎開の父兄の家族をお預かりしました。ですから、大体1年ちよつとくらいでしょうか、一緒に生活しましてね。

学童の帰った後を、高橋さんという方にその正福寺に住んでいただいたのです。

当時、正福寺は無住でございましたから、そこに入っていたきました。

そんな関係でいまだにお付き合いをしております。

神谷 それでは、まず池田先生の方から当時の話をお聞かせ願いたいのですが。

池田武 年をとりましてね、記憶も疎開関係についてはゼロというくらいですよ。



私の名前が出ている資料などをいただきましたが、何回も読ませていただきましたが・・・。
大矢喜三郎校長が職員の協力分担をしていましたが、そんな事も何も全然分らないですがね。

今日お邪魔すること自体を遠慮申し上げようかと思ったのですが、しかしお話がございましたので、皆様が何かお話くだされば、それにヒントを得て蘇るものがあるつかと思ひましてね、お邪魔しているわけでございます。

しかし、何にも話す事が無いという事になると、これは困るなあと思ひましてね、再度資料を何回も読ましていただいたり、何か発掘するような事はないかなあと思つてね、蓮光寺と済運寺は回りませんでした、あとの関係した寺を全部回ったり、何人かのお年寄りに話を伺つたりしたのでですよ。

ところがね、皆さん年を取つて。

昨日も三軒歩いたのですがね。

小宮薫さんは、私の教え子なんですよ。

85歳でしてね、会つて下さつたけれど、私の顔が分からないのですよ。

「弟が、あそこにいますから」と言つので、弟の家に行きまし

た。

それから小宮隆昭さんの所にもいききましたが、やっぱり記憶が無いということでした。

男の方は戦地へ行つていらっしゃる方もありましたしね。

女の方を、結構たずねてみました。

若干成果は有りましたけれど。

龍洞院へは3回行きました。

お坊さんは大変親切な方で、2回目に行ったとき『横須賀の学童疎開』という資料をくださったかな。

大矢校長の疎開の資料も、ちよつと見せてくださいました。

そこで、井戸のことについて聞きましたが、どうもね、坊さんも代わつていますから、何処へ井戸を掘つたかということがよく分からないという事でした。

ただ、早川青年クラブの井戸はここにあったということで、そこへ案内してくれました。

最上先生が井戸の地図を画いていますから、間違いありません。

横浜の女の方か、横須賀あたりの先生でなかったかと思つんですが、疎開の事を調べに訪ねて来たのだそうですよ。

県下の疎開事情を調べてまとめた本を送つてもらつたというのです。

その本があるはずだけど、今は所在がわからないとのこと。

その方の出身は山梨県でね、山梨の方に一括、その年寄りの



早川青年クラブ跡地(手前雑草地)

方は行っちゃっている。

だから「電話番号教えてくださいよ」と頼んだら、「分かったら連絡しますから」と言われました。

それから「本を、是非見せてくださいよ」と私の方は言っていた。

それで昨日行ったところ、「どついう本かということも分らない」、「それをもらったか、もらわなかったのかも分からない」というので、話が少し変わってきてしまった。

私は大いに期待していたんですがね。

その本を見せてもらえばね、色々分かったと思う。

疎開のことだけで、県下のおちこちをずっと回って調べたらいいですよ。

あるいは、県立図書館あたりにそういう本が寄贈してあるかもしれないと思う。

だからなんでしたら研究所の方でね、なんかの伝手でもってね、本があるかどうかを聞いていただいてね。

あれば多少綾小の事もみんな回っていると思うから、何か新しい資料の発掘が出来るのではないかなと、こんなふうに思うのです。

長泉寺の方は、疎開で吉仲豊さんという方がお寺の山の中に、ずっと住みついています。

その子どもを私が教えていますので、懇意なのです。

でも、もう代がかわっています、しかし、まあ何か得るところがないかと思っただけです。

行きましたら、新しく掘った井戸の位置がはっきりしたんですよ。

私としては一つの発見でしたがね。

それから、早川出身で海老名の上郷に住んでいる佐藤美和子さんの妹さん(私が教えていました)に事情を聞いたら「姉さんが知っているかも知れないから」といって姉さんの住所を教えてくださいました。

「何か疎開の事をご存知ですか」と電話で聞いたら、「疎開当日に、女子青年が炊事を奉仕した」と教えてくれました。

それはそうですね、綾瀬に入村してきて、すぐその晩の夕飯はなかなか出来ないわね。

それを、早川的女子青年が分かれて担当して、ご奉仕したのでしょうね。

そういうことがわかりました。

当時私は、高等科2年を持っていますね。

鈴木徳次郎先生と高等科の子どもを連れてリヤカーで木材を運んだということが日誌にあります、そんなこと全然頭の中に無いんですよ。

何処にあった材木を、何故運んだか後で考えてみたんですが、あった場所は分からない。木材も頭に浮かんでこない。

考えるに、風呂や何かの燃料用に援助したのではないかと、そういうふうに推測しているのですよ。

秋の運動会を合同でやったという事も書いてありますが、運動会でなく体錬会という名で、戦時色の表れでしたね。



早川青年クラブ(若竹寮)

先生たちの会合は常会（職員会）といって、そんなことがあったなあと昔を少し思い出した。
収獲はそうありません。

報告するような事もそんなところなんですよ。

神谷 この年表でいきますと、8月13日に諏訪国民学校の生徒さんが綾瀬に見えているのですが、その日のことなど何か記憶はありませんでしょうか。

この日は結構暑いですね。
気温32度。

体練会の様子など覚えている事はありませんか。
一緒にやった事は間違いないですね。



比留川 私はちょうど兵隊に行っておりまして、20年の2月20日に帰ってきましたね、それから3月いっぱい休養して、20年の4月1日から綾瀬小学校の方に復職しました。

終戦まで本当に短い期間ですから、私としてはあんまり疎開の事は担当しておりませんでしたしね。

よく分からないのですよ。

ただ、まあ一つだけ印象に残っているのは、諏訪の教頭先生だろうと思いますけれど、背のあまり大きくない小太りの先生が国民服にゲートル巻いてよく歩いて、たぶん役場とか綾瀬小学校に連絡にいられたと思いますけれど、私その姿だけは頭によく残っているのです。

その他のことについては余りありませんから、皆さんの話を聞きながら、もし思い出すものがありましたら発言させていただきます。

神谷 最初、諏訪国民学校の生徒は綾瀬小学校に来ていたのですか。

鹿島 二部授業ですね。

午前中は綾瀬小学校の生徒が教室で授業をいたしましてね。午後からは綾瀬小学校の生徒は体操であるとか教室外に出ますので、そういう時間割にして、午後から諏訪小学校の生徒が空いた教室で勉強するというようなことをしておりました。

清田 本校にも来ていたのですか。

鹿島 来ていました。

あれは4年生以上でしょうね。

午前中が綾瀬小学校、午後が疎開の学校。

神谷 加藤先生はその当時、綾北分校にいられたのではないかと思います。

加藤マ 疎開のことは、ちょっと分からない。

正福寺に洗濯に行ったのや何かは覚えてます。

職員が幾人か、この場所は誰々と決められたんですよ。
済運寺は誰々とか。

私は正福寺だけの当番というか、何かそういうことだったので。

洗濯に行った事は覚えていますが。

神谷 洗濯というのは子どもの。

加藤マ 子どもの下着やなんかを洗ってね。
その時分だから、手で洗ってね。

神谷 正福寺って吉岡ですね。

宮崎 そうです。

無住だったのです、その当時。

それで、父がそこを全部采配といいますが、お葬式がありますと自転車で安藤先生とか同じ宗旨のお寺にお願いに行つて、それで葬儀をするというような格好でしたね。

ですから、入られた当時は大変だったのではないのでしょうかね。

お寺が空いていましたから。

神谷 職員室にも諏訪小学校の先生方の机があったのですか。

鹿島 なかったね。

疎開の先生専属の机は、ありませんでした。

「どつぞおかけください」というように皆さんお譲りして、そこで事務をとられました。

当時をふり返ると、疎開をしていらした先生達は授業そのものよりも「今日の食事を、どのようにして食べさせようか」という事の方が大変じゃなかったのかと思いますね。

神谷 一応、食料は配給ですね。

特配があったりとか。

あと、皇后陛下から下賜品を賜ったという記述がありましたよね。

その当時のこと何か分かりますか。

岡田 配られたのはビスケットということになっていますよね。

昭和19年の12月の22日だと思うのですが。

前の皇后陛下が疎開児童に歌を詠まれて、これは記録にも出てきますが、こういう歌なんです。



「つきの世を せおふへき身ぞたくましく たしくのびよ さとにうつりて」。

これは新聞にも載りまして、皇后陛下の当時の言葉で言つと「思召し」で、記録によりますと「ビスケットを、特配で集団疎開児童と教職員に一袋ずつ与えた」と書いてあるんですよ。

で、12月にその歌が発表されて、伝達式を綾瀬の場合は翌年の1月にやっていますが、学校によつては2月11日にやっているとところも多くて、その場所でもうやらその受入校、つまりここでいうと綾瀬小を通じてビスケットを配ったというところが多いんですね。

中には、疎開児童だけにビスケットを配るわけにいかないの

で、その余裕のあったところは、地元の児童にも当時の言葉だとビスケットもどきの製品を「1人10個配りました」という記録の残っている所もあるんですけど、何か覚えておられる事はないでしょうか。

鹿 島 本校の子どもは、これはいただかなかったような気がしますね。

疎開児童のみではないでしょうかね。
そうですね。

綾瀬は農村でしたので、児童はわりとまあ食べるということについては、特に問題はなかったですね。

これは疎開の児童だけに贈られたような気がしますね。

神 谷 食糧事情ということで出てきたのですが、当時の疎開されている学校の先生とかが、どんなふうに苦労しているか。

それに対して学校の方として何か援助みたいな事をやったのかどうか。

そのあたりの事を聞きたいのですが。

池田武 記憶に無いなあ。

鹿 島 池田先生に召集令状が来たのは、何時だったでしょうね。

池田武 召集令状が来た日は忘れたけど。

応召したのは20年7月29日だから、1カ月ちょっと行ったただけだね。

比留川 池田先生が召集されたのは覚えているけど、最後だった。

池田武 帰郷したのは8月23日。

それでね、皆さんにその本に関連したことなんだけど、あとでお見せしようと思って。

その時の日の丸の国旗への寄せ書きがあるんだよ。それを持って来ているの。

みんな書いてくれているよ。

疎開の先生との関連では、教頭の松山先生だけが寄せ書きをしている。

あとの先生は書いていない。

今日の直接の事ではないけれどもね。

私の宝だよ。

「疎開分団・松山」これが教頭さんの名前なんだ。



寄せ書きされた国旗

清 田 出征といったら先生方にとっては、一番大事な場面であるのに、出てくるのは松山先生だけっていうことは、それくらい関係だったということなんですかね。

宮 崎 そうですね。

学校に2人か3人しか、先生はいないのですから。疎開児童を放って置いて来るといことが出来なかったと思

いますね。

清 田 さきほど疎開されてきた先生方が、食事のことで大変だったんじゃないかというんですが、大変さというのはそういうメニューを考えるとかではなく、食料の調達が大変だったんですか。

鹿 島 配給だけではなかなか足りませんのでね。

地元の農家から分けてもらうとか。

でも、農家としても供出割当てというのがありましてね。

なかなか供出をしようとして、余分は無かったんですけど。



それでも作物を作る所はどこでも作ってね。

食糧の自給に努め、少しは疎開の人にもあげていた。

配給はもちろんありましたけれどもね。

育ち盛りの子どもであるし、お腹も空くしということで、3時のお団子でも少し作ってあげたいという時は、農家へ行って小麦や何かを分けていただいたりなされた先生もおられました。

宮 崎 吉岡の正福寺の学童は、横須賀の中央地区で一番大きなお店をお持ちの商人の学童が多かったそうです。

武村先生っていう方が正福寺で寮母をしていらして、実家が浦賀のお菓子屋さんなんですよ。

もうお亡くなりになったんです。

武村先生から資料をいただいたらと思って連絡しましたら、

娘さんも仙台の方にお越しで、ちょっと連絡がつかなかったんですが手紙をいただきました。

その中に「父兄のみなさんが色々とお持ちになったり、お菓子を武村先生のお家から送ってくださったりで、正福寺は他の疎開学童とは違ったんじゃないでしょうか」って本にも書いてございますけれどね。

神 谷 最上先生という方がこの中で書いているんですが、フ

ィルムなんか結構融通してもらって、それで、この本(横須賀の学童疎開)の中にも結構先生が撮った写真があるんですよ。

「フィルム自体を融通してもらった」ということらしいんですよ。

当時はフィルムは貴重品だったみたいで。

宮 崎 何でも思い出して書いてくださって電話しましたら、

そんなお手紙がきたのです。

「神社へお参りに行った」とか「裸足で神社に参拝した」とかね、そういうことが書いてございすけれど。



写真は何枚もなくて、「お母さんがこの間亡くなられて整理をしたら1、2枚出てきた」なんていつて写真を送っていたいて。

この方は綾瀬の中学へ通われたみたいですよ。

それから横須賀に帰られてね。

もう中央の一番良い所にずっとお店を持っていらしたんですよ。

あの菓子店舗で。

で、帰られてから自分の今一番下の娘さんがカレー屋をやってらっしゃる。

写真のこの方が正福寺に居られた武村先生っていつてね。この方が神奈川県で一番最初に女子で中学の校長先生になられた。

だから先生が生きておられれば様子がよく分かるのだけれど。亡くなられてしまってお葬式にも行きましたけどね。



後列左から二人目が武村先生（正福寺）

神谷 疎開児童の保護者の方も、時たま慰問に来たと思うんですけど。そんなところを見かけたことはありませんか。

宮崎 お食事の時とか何か、よく見えていましたね。

加藤マ 何年か経って来ましたね。

私が吉岡へ行ってから。

おばあちゃん達その当時の人は来てくださってって言われて、おばあちゃん行きましたよ。

宮崎 今、写真をお見せしたその方のお父さんが、後に正福寺

にしばらくお住まいになってたんです。

横須賀のお家ご自分のでありながら貸していたんです。

横須賀の中央地区の端から端までが自分の敷地ですから、すごい資産家だったんですね。

それで、その一角に自分でコーヒーのお店を始めたりなにかしてね。

高橋さんは横須賀の高台にお住まいでね。

そこを全部取り払って、私の家に2年ぐらいおられたんです。一緒に生活しました。

加藤マ なにかとても器用な人でね。



ちよつとした仕事で作る人がいなくて困ると、「お寺さんに行って、高橋さんに頼めば作ってくれる」なんていつてね。

宮崎 お風呂なんかも自分でお作りなって、学童を風呂にはいらせたり。

すごい器用な人でね。

加藤マ 器用な人でしたね。

家でも才槌(さいづち)を頼んで作ってもらってね。

これは高橋さんが作ってくれたんだと。

その才槌は、まだありますよ。

宮崎 実家でね、ケヤキの大きなので臼を作った時、「その上側

をください」って言われてね。

父が「こんなの転がってんだから、どうぞ」って言ったら、杵にしてちゃんと臼と一緒に横須賀のお店に飾って有りましたよ。

それで、舟もご自分で作ったんじゃないかと思うんですがね、釣りに出たりね。

私は歯医者さんも、高橋さんの貸しておられるお家の歯医者さんにかかりました。

高橋さんちに泊り込みで行って、1日3回くらい治療していただいたのです。

すごくお上手なんですから、近所のみんなも行きました。山中のおばさんもね。

加藤マ 山中のおばさんもよく「歯は横須賀まで行った」と言っていました。

神谷 それは戦争中のことですか、戦後のことですか。

宮崎 戦争が終わってからのことです。

これは、横須賀へ引揚げられてからのお話です。去年、高橋さんの奥さまが亡くなられたのですよ。

神谷 それも疎開があつたおかげで、そういう繋(つな)がりができる。

そういう繋がりには、他にはありませんか。

宮崎 そうたくさんないかも知れせんね。

父が一応家でお預かりしたということがね。

その方に正福寺に入ってもらい、その後横須賀へ帰られたという、そういう繋がりがあるんでしょうね。

鹿島 吉岡の分校に、ずっと後までいられた人は何ていう人。

よく出来た秀才な女の子がいたよね。

宮崎 ともちゃんじゃないですか。

武村先生のお子さんの。

武村先生の葬儀にも、私行つて来ました。

金井 この写真の中にいるそうですよ。

宮崎 ちょっと顔が違いますね。

私分かりませんでしたよ。

家では、いまだにお付き合ひしていましたから。

比留川 この本をばらばらと見せてもらって、私の知っている名前の人がいづいぶん出ていますよ。

宮崎 そうですか。

ですから、富永先生、松永先生、武村先生。

みんなしょっちゅう家へ見えていましたから、存じ上げています。

神谷 諏訪小の先生は、宮崎先生の家に、何しに見えられていたのですか。

宮崎 そうですね。

父が役場でそういうこと(疎開事務)をやっていた関係もあったんじゃないかと思えますけれどもね。

清田 役場では疎開関係だけの仕事だけをやられていたわけではないですね。

宮崎 そうじゃないんです。

清田 たまたま担当になられて。

宮崎 そうなんでしょうね。

ですから、私もあんまりそんなこと知らないのです。この前いただいた当直日誌で見ましたら、「あら、父は何でこんなに学校に行ってたんだろう」と思っていました。

3日も空けずに「加藤氏来校さる」とか何とかと書いてありますから、「何でお父さん、こんなに役場から学校に通っていたんでしょうね」なんて言いながら読ませていただきました。



鹿島 配給物資の係をやっていたらしゃったように思います。

ズックだとか、学級へ5足ぐらいしか来ないですよ。そうした物資の配給の仕事もしていたような感じですね。

宮崎 疎開とは違いますが、飛行場を作るのに飯場がありましてね。

その関係も配給でね。

あちらは砂糖は要らないですよ。

塩が欲しいからって、「塩を余分に回してもらえないか」とか、そういったことでずいぶん役場に見えてたようです。

神谷 配給の品というのは、諏訪小学校の方にも別にくるわけですか。

鹿島 そうだと思いますね。

綾瀬小学校は、綾瀬小学校でできましたね。

それから各学年に分ける。

池田重雄先生が係でね、よくやられていました。

1クラス【60名ほど】に5足ぐらいしかきませんでしよ。

そしてまた1カ月ぐらい経つと5足ぐらい。

1クラス回り終えるうちに、始めにもらった子のはもう穴が空いちやって。



当時の綾瀬小学校(国民学校)

それで、藁草履(わらぞうり)作りの講習をしましてね。随分作りましたね。

ですけど、綾瀬に吉岡の根恩馬というところがありますね。そこから綾瀬小まで来ると、朝作って履いてきた草履は帰るともうすり切れてしまう。

砂利道ですから。

ですから毎日作って履いてくるという状態でした。

雨の日はほとんど裸足で来ましたね。

神谷 大体5キロぐらいですかね。

鹿島 5キロはありますね。
良く通いましたね。

金井 今、配給の話が出ているんですけどね。

当時、池田重雄先生が配給の係をしていたという話ですけれども、何か思い出はありますか。

池田武 そうね。

憶えていないね。

重雄さんがそうだったか。

鹿島 そうですね。

職員の給料とかね。

そついうのは全部重雄先生がやってくれた。

金井 長靴が1クラスに5足ぐらい配給になって、それを配ったという事なんですね。

加藤マ 長靴は見た事も無いほどでしたね。

鹿島 ブック靴ですね。

金井 根恩馬の方から来る子どもは、藁草履をよく作って履いてきたということです。

遠いから1日で壊れちゃって、毎日作ったなんて話が出ています。

清田 毎日作るって、一足どの位の時間でつくるのですか。

鹿島 2時間くらいあるとできました。

1時間で片方くらいはできましたよね。
慣れてくるとね、縄をなうのも上手になりましたね。

池田武 今の配給は、本校児童に対する話だよな。

思い出したよ。

調べてみたら航空隊の中には、地下に1。数キロの地下壕があったんだね。

発電機もあるし下士官の休憩所もあるし、全ての物はね、空爆でやられない様に地下に作った。

えらい基地だ。

だから、小園大佐だったか言うこと聞かないで厚木航空隊だ

けは敵と戦うという事をやっていたわけなんです。

だから戦後ね、地下に物資が沢山貯蔵してあった。

初めの頃はね、家（国分）の方からもね、牛車を持ってきて衣料とか食料を積んで持ち帰ったのだよ。

綾瀬の人なんて随分持ってきたよ。

その残りを役場の方で何とかしなくちゃいけないというので、物資をみんな学校の講堂に運んだんだよ。

物資が講堂いっぱいなんだよ。

それでも持つていかれるから、役場の小使いさんが不寝番で泊まっていたんだよ。

その中には海軍の少年が着る、何ていうの。

鹿島 7つボタンの海軍兵の制服。

男の子は、2学期に全部7つボタンでね。

びっくりしました。

池田武 それを学童に配布したんだ。

講堂に収納した物資の中で、子どもに与えられるような物資は、何でもみんな綾瀬小学校の子どもに配布した。

7つボタンだけは、今思い出しましたがね。

町民にはね、他の物をみんな分けてあげていたと思う。

でも1カ月ぐらいいは、講堂の中に収納してあったかもしれない。

私どもも当直になると、つまらないから何とか不寝番の人に渡りをつけて、落花生をもらって煎って食べた事がありましたね。

そういう逸話があるんですよ。

清田 その時期って、まだ諏訪小の生徒はいましたよね。

10月に帰ったはずですから。

鹿島 その物資を諏訪小学校にも少しあげたのかね？。

どうだったんでしょ。

宮崎 全然分らない。

もう父のしていた事。

今になって「あれっ」と思ってね。

神谷 諏訪小学校の子どもは、綾瀬小学校から見るとかなり離れた所に皆さん行っていますよね。

鹿島 ですから、普段は、ほとんどそちらの方で予習復習やっていらつしましたので。

二部授業というのも、1週間に2回か3回じゃなかったかね、お見えになるのが。

本校まで通ってくるのが大変でした。

神谷 ちょっと雨が降ると来ないとか。

9月4日の日に「諏訪小学校生徒、雨天のため登校せず」と

書いてあるんですけど。

記録に残っているのはこれだけなんですけども。

鹿島 雨具もありませんね。

雨具も本当に配給でございましてね、ありませんので、出られなかったんだと思います。

比留川 この人は、今井啓子さんって言うんですか。

宮崎 正福寺に疎開していた子です。

この人とお姉さんがいて、その妹が吉岡の家にお父さんとお母さんとお姉さんという、私と同じ年です。

それでこの人に電話しましてね、何か資料になるものは無いかということをお願いしたんですよ。

そうしたら病身だったものですから、なかなか連絡ができなかったのです。

60か60幾つかでしょうね。

神谷 年表でいうと一番最後の方なんですけれど、10月1日に帰校送別会をやっているんですが、この時のこと何か覚えていませんか。

池田武 分からないなあ。

神谷 この辺は結構慌しかったんでしょうかね。

3月に6年生が卒業のために帰っていますね。

これは6年生だけだと思うんだけど。

前の座談会的时候会に加藤先生でしたか、子どもが寮から抜け出して帰っちゃったという話がありましたか。

加藤マ それはみんなで探して、大騒ぎでした。

鹿島 私がそれを話したんだと思うんですよ。

吉岡に横須賀水道って、現在も通っていますけれども。

正福寺にいた児童たちが、近所の農作業を手伝いに行ったときに、「この横須賀水道を真っ直ぐ行けば、おめえの家の方に行っちゃうんだわ」って言われて。

それで本当に行けると思ってたね。

夜宿舎から出ちゃって大騒ぎになったことがありますね。

正福寺から行ったのは、3名か4名じゃなかったかしら。

宮崎 そうですね。

5人ぐらいだとちよつと聞いていましたけど。

「これを伝わっていけば横須賀に行くんだよ」って。

鹿島 その小父さんも悪気で言ったのじゃないと思うんだけどもね。

「これは横須賀水道って言うんでな、これを真っ直ぐ行くとおめえんちのほうへ行っちゃうんだよ」と言ったんで、「それじゃ行こう」ということだね。



家族慰問演芸会（五社神社）

お友達どうして誘い合って行ったんでしょね。

神谷 それは疎開してからどのくらい、何カ月ぐらいたったかの
ことなんでしょうか。

宮崎 子どもが里心のついた1カ月か2カ月位あとのことだと
思います。

池田武 長後あたりまで行ったとか。

鹿島 長後の先まで、英子さん聞かなかった？
大変だったでしょう。

宮崎 大変だったらしいです。

池田武 望郷の念にかられて、父母恋しく、3人ぐらいたったか。
そんな話だったね。
ひとつの哀話だ。

宮崎 人数は別ですけど、武村先生が「困っちゃってね、でも良
かったわ、見つかって」なんて言っていましたけどね。
家に来てお話になっていたのは、私聞いていますけど。

比留川 記録を見ると3月10日に子どもが帰っているが、これは
一部の子が帰ったということかね。

池田武 いやそれはね、推量なんだけどね。

6年生でもって高等科になる生徒が帰ったということではな
いかね。
そう解釈したんだけど。

比留川 どういう訳で一部だけ帰ったのかなと思って。
池田先生の言った通りかもしれないね。
全体が帰ったのは10月1日ということ。

池田武 だから10月1日に送別会をやっているからね。
この日に帰ったかどうか分からないけれど。
翌日あたりに帰ったんじゃないかと思うんだよね。

比留川 わざわざ送別会に来たわけではないね。

池田武 そういうことは記憶にはないね。
山縣さんという人の記録にもない。
この人の方が正しいと思うんだ。
1年2カ月、他の記録は1年と大体書いてある。

比留川 片方は1年2カ月と書いてあるね。
だから10月までだね。

池田武 何月何日かということは出てないけども。
これが正しい記録でしょうね。

比留川 8月に入村して翌年の10月に帰ったならば、1年2カ月だね。

ここいらのところの記録が定かでないね。

池田武 最上先生の『一寮長の記録』の中でね、綾瀬村に入っ

きたのは7月27日とありますがね、これは誤りだと思うね。

他の記録を見ると8月13日だね。

やっぱり記憶がここんとは確かでなかったという事。

単なる活字の誤りじゃないかと思うなあ。

加藤吉 7月12日に校長さんが学童疎開に関する会議に出席して



いますが、先生方が「綾瀬小学校に学童疎開が来ますよ」と言う事をお聞きになったのはいつ頃かお分かりになりますか。

学校は受け入れのためにどういうことをやったのかということなんです。

7月29日に学童疎開に関する打ち合わせが行われていますよね。

当時、諏訪小の先生方がどういう形で綾瀬に来て、どういった生活をするか、どのような協力体制をとるかということを経長さんなり教頭さんからお聞きになったのか、そのところはお分かりになりますか。

長泉寺に聞き取りに行った時、トイレを作るのが大変だったと聞いているんですよ。

本堂の横にトイレを作ったという話を、今年亡くなられたおばあさんから聞きしたんですけどね。

その時に予算がないので、樽なんかを集めるのでどうのこののしたって。

これは役場の方でやってくれたのかなあと思ったんですけれど。

鹿島 役場の方でやったのではないでしょうかね。

加藤吉 その時の協力みたいなものが、村の方からあったように聞いているんですが。

鹿島 有志の方ですね。

樽も戦時中ですから、皆さん貴重品だったんですよ。

ですけども、やはり有志の方が樽とか昔は大きな甕(かめ)があっただんです。

その甕を寄付してくださって。

そして甕をいけて、周りを囲いその甕の上に2枚板を並べてトイレにしたようです。

それは、肥やしとしても貴重なものでもあったんですね。

この時私たちはまだ、先生といっても一番下の方でね、上の先生方のおっしゃる事をハイハイとお聞きして夢中でやっていました。

それで、あの疎開の現状はこうですああですっていう様な事をね、聞き及ぶという立場にはありませんでした。

上の先生方がそういう企画とかをやっていたらしゃったので、決まった時に「こうになりました」ってお聞きしたものですから、詳細なところは分かりませんが、そうではないかと思ひ

ます。

私の妹が深谷の方に嫁いでおりますが、そこのお父さんが、やはり村の役場に勤めておられました。

大きな甕があったので、それを長泉寺に持って行ってトイレを作ったという話を聞いたことがあります。

何ていうんですか、大きな甕を持っていたようなお話でした。

古い板の上に並べて周りを囲って。

ですから、トイレが一番大変だったと思うんですね。

加藤吉 当時何もなかったので、「村の人たちが随分手助けしたようですよ」という話を聞いたものですからね。

鹿島 それに板ありませんのでね、一時しのぎには「筵(むしろ)」「や」「かます」。

「かます」って昔は麦とか五穀を入れた。

「かます」をほぐしてあれを吊るして、もう急ですから。そんなものを吊ったという話を聞きました。

加藤吉 学校の協力っていうのは、二部授業の時間の設定とか、そういうことだけだったんでしょうか。

鹿島 そうですね。

あまり協力っていうか、そういうことしか出来なかったんじゃないでしょうかね。

加藤吉 例えば寮の机ですが、雨の日に学校に行かないとなると授業を寮の中でやったのではないのですか。

鹿島 寮の机や何かは、お寺さまのか何かをお借りしたのではないのでしょうか。

神谷 横須賀市からは送ってきてはいるんですね。

何処に送ったかは、ちょっと分からないですけど。

鹿島 各お寺さまとか集会所とか、そういう所に送ったんだと思うのね。



井戸水のポンプを押す女児

神谷 学校には来なかったということですね。

鹿島 そういうものはね、学校には来ませんよね。そういう記憶はありませんね。だから直接宿舎に送ったんだと思います。

金井 この記録を見ますとね、7月12日に校長先生が学童疎開に関する会議に出席したと書いてあります。

綾瀬小学校の先生に、校長先生から「今度学童疎開の児童を受け入れるよ」という話があったと思うんですが。

いつ頃、どんな風にあったか、覚えておられますか。

池田 あったはずだがね。

鹿島 池田先生は、お偉い先生でしたからね。

池田先生の方にはあつたんじゃないですか。
私なんかは、あとでお聞きしました。

金井 記録を見ると、その長泉寺のトイレを作るのが大変だったという話があるんですが。

トイレはきつと大きな甕を寄付してもらって、それを筵で囲って作つたんじゃないかというんですが。

池田武 それもね、お寺で聞いたんですがね。

もう代も替わっていて、今3代目なんですがね跡を取ってもらえる方。

それから、国分寺台団地で野崎という薬局を開いておられる方がいるでしょう。

両方に行って聞いてみたんだけど、分かんなかったね。
何処へ炊事場を作つてどうだつていうことを。

最上さんのようにはつきりすればね、そう書くつと思つてたの。

今になるとそれが分からない、吉仲さんも分からない。

だから、今の話のトイレなんてものもね、簡便な方法だったかもしれないね。

鹿島 何しろ物資がありませんのでね。

本当の応急手当っていうか。

池田武 写真を見ますとね、吉岡の済運寺の児童食堂。

こんなに立派な屋根を葺いて作つたかということが、ちよつと疑問なんですよね。

最上先生が早川青年クラブから行って、撮つていられるんだから、間違いないでしょうけどね。

結構大きく立派なもんですわね。

当時フィルムなんてものは、配給制で貴重なものだったらしいのだけど。

最上先生は、父兄の写真屋さんフィルムを扱う人がいて、提供してもらつたらいいですね。

この本に発表してあるのは9コマですか。

記録(最上先生の話)を読んでもみると、そういう写真屋がフィルムを提供してくれたから、200コマあるそうです。

ネガは100枚ありますといっているから。

ご健在なら載っている以外のネガを、どんなのを撮つてあるか、そのネガを全部見てみたい。

100枚あると言つんだから。

良い資料が出てくる可能性はあるんじゃないかなと思つんですがね。



済運寺(吉岡)の児童食堂

神谷 それはですね。

まだ整理が終わっていないんですが、以前横須賀の教育研究所へ行って、接写して撮ってきたものがうちの研究所にもあるんです。

清田 最上先生の写真の原版は、教育史を作っている横須賀の教育研究所に寄贈されているんですね。

神谷 諏訪小学校の先生方と懇親会をやっていますよね。

清田 10月14日ですね。

神谷 10月14日。

午後3時より諏訪校との懇親会並びに入営者壮行会。
土曜日ですから半ドンの日ですね。

鹿島 やつぱり。

ほら、村長さんと役場では加藤さんが出席されてるから。
英子さんのお父さん来てる。

加藤マ 村長さんって。

鹿島 鈴木寛さん。

池田武 入営者壮行会って。
これ、あれかな。

飯野先生の応召とは日が違うかね。

神谷 ちょっと、これ当直日誌には名前が書いてないんですけども。

池田武 飯野さんは何時出征したかな。

清田 もうすこし後じゃないですか。

飯野先生は20年の8月ですね。
召集されているのは。



池田武 8月1日か。

召集令状が来たのは。

比留川先生は10月14日にはまだ帰って来てもらえないかな。

神谷 まだです。比留川先生は、次の年の2月ですから。

池田正 11月17日の航空隊の稲刈り作業に、疎開の5・6年生も
手伝いに行った。

と書いてありますが、そのあたりの子どもたちのようすを何か。

池田武 稲刈り作業関係について申し上げますとね。
大矢喜三郎校長が役場へ行って交渉の結果、「航空隊の中の水

田を耕作してよろしい」という事になりました。

航空隊の中の夢川に沿ったところの水田は、一反600円か800円でもう買い上げてあったけれど、耕作者がいないわけですね。

それで無駄になっているから、そこを学童を使って稲作をやったら、多少その食糧難に貢献するんじゃないかというようなことの話があつたんだと思うんですよ。

そこは推量だけれど。

とにかく校長さんが役場へ行つて、どういふ交渉されたか分からないけれど、それではということで、高等科の生徒の実習の一つとして、また多少の食糧難に貢献するとして、水田耕作する事になった訳です。

水田耕作といつたつてね、第一番にク口付けもやらなくていけない。

そこところは私も記憶がないけれど、これは推測ですが、恐らく子どもを引率していつて、手でもって田のク口も作ったのではないかと思います。

これもまた推測ですけど、皆が鋤くわでもって耕したのではなくて、足耕したんじゃないかと私は思っています。

おそらく湿地地帯ですから、縄文以前の稲作に返つて、足耕といつて足でこねたんじやないかと思うんですよ。

始終水があるところですから、田植え頃の土地を作るときはどぶどぶなんですよ。

その後から生徒を使って稲の苗を植えた。

植え方などは、はつきりしませんけれど。

綱を張つてね、何か印をして、だんだん下がってきて子ども

が植えていくような方法をとったかもしれない。

私もそういうようにやっていましたから。

同じ水田でもね、深い所と浅い所があるんですよ。

昔、夢川が氾濫して流れた粘土や土が溜まったという所だと、つい腿ぐらいまで入るんですよ。

そういう深い所は、私が植えたんですよ。

私は百姓と両方やっていましたから。

そうして、まあ秋の実りになって、稲刈りをやった。

稲刈りも1日では終わらなかったと思うんですが、記録では1日だね。

17日に「本日高等科、航空隊の稲刈り作業」と書いてあります。

5・6年は学校にいかないで、疎開の学童も入れてね、「豆取り入れ」としてある。

大豆を作ったのかもしれない。

ここらは分かりません。

そうして稲を栽培して稲刈り。

稲刈りは、めいめい鎌を持ってこさせたと思いますよ。

その稲を小さい束に括つて運ぶ。

リヤカーとか何とか運搬用具はそうありませんから。

鹿島 リヤカーをお借りしましてね。

稲を学校に運んで竹を横に渡して掛け干しにしたんですね。

池田武 子どもたち一人ひとりに小さい束でもって運ばしたの。

大勢だからほら少しでも持つていけば良いと思つてね。

ところがね無駄をしたのよ。
今でも、もったいないと思う。

途中でバラバラになったりなんかして、道路の上にそうとう落としまっんだ。

だからあれは極端に言ったら、一俵分ぐらいこぼしちゃったかもしれない。

それから学校に運んで来た。

奉安殿の西に常盤園という山林(梅林)があつて、その木の所に確か棒でもつてね、こうやって掛け干しをした。それから今度は稲コキですよ。

鹿 島 ガラガラという足踏み機械を

借りてきてね。

こう足で踏んでやりました。



常盤園に向かって

池田武 そういつ時になるとね職員がやつたんだね。

後になるとね、モーター付きのを動かした事もある。

小使いさんの三ちゃん、柿崎三次郎という人が器用でね、われわれができないモーターのまわりつけをやってくれました。

その後、どれくらい収穫あつたかはつきりしませんがね、白米にして職員が一部を分けてもらい、あとは供出したかも知れないと思う。

そのところははつきり分かりませんけれど。

あの時は青木先生という農業の先生がいた。

青木先生と小島先生の2人が農業関係の係だったから。

比留川 子どもが稲を抱えてね。

集団で帰ってくるその姿は見ましたよ。

今も思い出しますよ。

束をね抱えて来たんだからね。

リヤカーだってそんなにありやしなかったんだね。

鹿 島 宮下のよっちゃんという人がリヤカーを貸してくださつてね。

リヤカー2台つきりで、あとはみんな子どもたちが抱えてきたんですね。

笑子(当時・比留川)先生がね、高等科を受け持つてよく働いておられました。

池田武 子どもはよく働きましたけれどもね。

さすが、水田になると周りで立って見ている生徒のほうが多かったような気がするね。

だから農作業の方は、大体職員が中心になって働いたという事になるんじゃないかな。

とにかく私は、中心でね。

俵じめができるのは、私だけだったかな。

私がみんなやったかな。

足でトントントンとこうやって。

これは、他の先生方は経験していなければ出来ない。

それは私の分野だったな。

百姓仕事は全部だろう。

私が特に中心だといつてもいいくらいに働いたと思いますよ。

高等科2年を持っていたから。

池田正 綾瀬の子は、農家の育ちだからそんなこと何でもないわけですよ。



ただ横須賀から来た子どもたちは、都会の子ですから、稲刈りは初めてだったかも知れない。

そういう中でお世話になっているからお手伝いしよう、自分たちのできる事をという気持ちがあつたんじゃないかね。

鹿島 とれたこの米をね、疎開の人にも上げたんだと思うのね。

宮崎 けどその時、横須賀の生徒が手伝ったかどうか。

鹿島 立って見ていたんじゃないかな。

池田正 豆取り入れは、「当直日誌」に書いてありますけどね。

清田 疎開関係の資料の中には、11月6日にも稲刈りを一斉にやっているんですね。

疎開児童たちが11月6日に、早川と吉岡分団両方とも稲刈を手伝っている事になっているんですね。

鹿島 掛け干しにする稲束の小さいのを、その竹の所まで運ぶようなことをしたんじゃないのかな。

稲を刈るんじゃないくて、小束にマルきますよね。それを掛け干ししますよね。

1把か2把持つて掛け干しの場所に運ぶ。それを手伝ったんじゃないかしらね。

清田 確かにそうですね。

多分ね、吉岡あたりの田んぼは、今はどうか、昔は結構深い田んぼが多かったんじゃないですか。

だからね、あの頃は稲刈りやってもまだずぶずぶ入っちゃった田んぼだから、子どもで、しかもやっていない子が入ったら、足が動かなかったと思います。

宮崎 それと蛭がいるでしょう。

あれがたかって。

だから地域別にはそういうお手伝い、農家に行って、あるいはしたのかも知れませんか。

鹿島 小さい束を運ぶぐらいの、それくらいはやったでしょう。

池田武 豆の栽培はね、おそらく今の小学校の前、商工会館のところでと思います。

あそこの所は、下の長龍寺さんの土地なんですよ。

そこを1反半ぐらい実習地に借りておいたのです。

そこへね、これは推量なんですけど、大豆を栽培したんじゃないかと思うんです。

そうでないかね、豆の収穫っていうのは、ちょっと考えられ

ない。

勤労奉仕で行ったという訳でもなさそうだから。

神谷 今の商工会館の所に畑があったということなんですね。

鹿島 田戸さんという自転車屋さんもあったしね。
その隣の畑。

そこが学校の実習地でした。

池田武 珍しいものでは、ラミীর栽培ですね。

繊維が足りないからね。

植物名がラミীরと言うのか、ちよつと思いだせないけど。

農家の人が作ったラミীর生徒を連れて刈りに行った記憶がありますかね。

これは上土棚の一番北の方で、鶴島から向こうに上がる長後に抜ける間道、その道の直ぐ南あたりで作ってあるのを取りに行ったことがある。

桑の皮を剥いで、繊維を取って納めたこともありますわね。

ちよつと前になるけれども、蕎麦(そば)の種を校長さんが持ってきて花壇の周りに蒔いたことがありますね。

実にして、食糧難に多少なりとも力になるというんでやったんでしょう。

これは上からの指示ではなかったと思うんですがね。
ところがこれは大失敗だね。

せつかく蒔いたけど、どうもあまり収穫が無かった。

加藤マ 校庭の半分に蒔いてしまったんですよ。

住宅の方の前側には全部。

花が良く咲いたまでは憶えているけど、実ってどうだったかは、私は記憶がないんだけど。

蕎麦なんて子どもは知らないからね、喜びましたよ。

花が一面咲いた時は、きれいですわね。

池田武 初等科の授業が取り止めになったのは20年4月の新学期

からで、高等科は勤労奉仕のために学校に出てくるということになりました。

そういうことがありましてね。

その勤労奉仕では何を多くやったかというところ、耕地整理を兼ねて耕地の暗渠(あんきょ)排水工事をやったんです。

加藤マ みんな踏み固めて足が痛くて。

鹿島 松が一番良いというんで、生の松の葉をね、あれを使いました。

池田武 この作業を地域ごと担当をきめて、私はこの時には早川に割り当てられて。

空襲もあるから、遠くの生徒をみな1カ所に集めてということではなくて、分散なんですな。

吉岡の子どもは自分の所の水田の暗渠排水を手伝うと。

上土棚は上土棚の子どもでやると。

私は早川を受け持ちましてね、やったんですがね。

すごい。

子どもが働けないくらいなんですよ。

今の綾瀬西高校の南の田んぼなんですよ。

綾瀬西高校の運動場の南側のおそこは昔のうたり田っていうんですよ。

田んぼがね、始終水があつて排水が出来ないような所。

「うたり」という言葉がある。

うたり田。

湿田なんですよ。

そこへ暗渠排水を。

当時は何を入れてたのかね。

土管でなく、海老名耕地では松葉を敷きましたがね。

鹿 島 松葉をずいぶん敷きましたね。

池田武 松葉だったか。

自分の背よりも深く掘らなくちゃならない。

だからシャベルでもってね、土を放り上げるんですよ。

生徒は容易じゃないので、あんまり手を出さない。

とつてもひどい重労働をやりました。

率先垂範と言うことばがあつてね。

職員や私なんて率先垂範だ。

身をもって子どもに教育するんだから、先に立たなくてはいいけない。

一生懸命やつてね。

そうして昼になるとね、当時生産組合長の波多野さん(市役所

にいた波多野さんのお父さん)が「先生、家においでよ」なんていつてくれてね。

味噌汁なんぞご馳走になったことがありますけれども。

生徒はみんな自分の家に行きますから。

誰か土棚には行かれたかね。

土棚ではね、親たちが、みんな一緒になつて作業をやったらいいですよ。

そうして子どもたちにお菓子をやりたりしたというんだ。

他の地域では、みんなそういうようにね。

生徒が一生懸命やるからというんで、大人も一緒になつて勤労奉仕したというんですがね。

そんなことがございました。

清 田 全く授業がなくなつたんですか。

池田武 そういう時もあるかな。

初等科あたりは麦踏みのような簡易

な作業はやつたのかもしれない。

19年にはやつたのかも知れないと思いますかね。

やはり勤労奉仕はやつてましたから、

作業をね。

軽い作業は、初等科の4年生以上ぐらいいはね、できる事は手伝つたかもしれない

せんね。

授業は全然やらないんですからね。



さつま芋掘りの手伝い

これじゃ教科が全然進まないで、学力低下にもつながると。いくら戦時下でもというんでね、私の発案で私の受持ちの高等2年の男子だけは、2時間ばかり夜学をやったんですよ。

校長の許可を得たかどうかは記憶がないんですがね。

何にも教具も要らない国語だけを。

幾日続いたか分かりません。

そのうちに夜でも空襲があつたでしょうから、1カ月ぐらいやつたか、どれくらいやつたか分かりませんが、そういう規則破りをやつたことを憶えています。

それから私が受け持っていた子どもたちは、昭和19年の何月頃だったでしょうか、常盤園のある西側の梅林の下へね、自発的に自分たちで、防空壕を掘つたんですね。

東京が初めて空襲をつけたのが11月24日なんですがね。

そんなことからだと思うんですがね、自発的に防空壕を掘つたんです。

これも生徒が私にも言わないで、「勝手に何かやってんなあ」と思つたら、防空壕を掘り始めたんだよ。

結構掘りましたよ。

校長も黙認したんでしょうね。

そうしたらばね、父兄の方がやっぱり見るに見かねてつて言いますか、手伝つたり、それから校庭の北のほうに幾つか確か防空壕を掘りましてね。

今度は父兄が、父兄に話をしたのかも知れませんが、防空壕を作ってくれましたがね。

そんなことございます。

子どもながらもね、僕は感心したんですよ。

愛国心と言いますかね、まあ身を守るということかも知れませんが、とにかく防空意識が相当あつたと。

それからよく感心したのはね、ゼロ戦とか雷電とかいう高座工廠で作った飛行機の名前を知っているんですよ。

私なんか分からない。「雷電とゼロ戦とどこが違うんだ」って言つて、分からなかつたんですけど。

子どもは、やっぱりそういうことには関心が深かつたね。

そんな記憶がございます。

あとは、自分が機関銃砲に、直接じゃないけどね、撃たれそうだったということがございました。

この記録の中にも最上さんが書いておられます。

病になった子どもがでて、その子どもをリヤカーに乗せて早川の原を通つたらば、急に飛行機に撃たれたと。

子ども達はみんなさつま畑に潜るようにして伏せたという記事がありました。

似たような事で、いつ頃かは知らないけれどもね、当時、ほら8月の夏休み中だったでしょうかね、当直で学校に出ている時にパラパラとね、音がしたんですね。

いや、日直の時だったか。

昼間、男の先生も日直を受けたかな。

この少し前に、海老名耕地の場合は、農家の牛が撃たれたといつぐらい空襲が相当激しくなってきたんですがね。

私は当直室に居たんですがね、音がしたんで当直室の押入れの布団の中へ頭を突っ込んだんです。

音が聞こえてからやつたつて間に合わないんだけど。

その後、すぐ隣の校長室の天井を見たら、弾の跡があるんですよ。

弾が何処に落ちたか、そういうことはちょっと分かんないのだけど。

校舎がトタン屋根でしたから、トタンを貫いて、そして天井板を抜いたんですね。

天井板がささくれていたんですねよ。

そういうことも体験しました。

本土へ初めて入った敵機を見たのは、昭和17年4月18日なんですよ。

初めての空襲を受けたのは、17年ですよ。

それから17・18・19・20年と戦争が続くんだよ。

随分早く、もう偵察機が来たんですね。

空襲警報が鳴ってB₂⁵が来た時、この綾瀬小学校の校庭の上を飛んだの。

それを目撃したんですよ。

疎開のことはあんまり知らないけど、空襲のことについてはかなり憶えていますね。

忘れられない。

特に布団の中に頭だけ潜り込んだっていうのは、今になっても自分でもおかしくなっちゃまう。

清田 そんなに空襲が激しくなっても、綾瀬にいた疎開児童ってのは、他へ移動するということはなかったんですね。

鹿島・加藤マ・宮崎 ちょっとと再疎開を考えたというようなことが

書いてあるね。

現実には動かなかった。

清田 この資料を見ると、最初は疎開先に綾北分校を考えていたみたいなんだけど、最終的に綾北分校は避けて、早川とか吉岡とか上土棚に疎開していますね。

鹿島 綾北分校は、あまりにも航空隊に近いものですから、危険性も大きいという事で綾北分校の方へ行かなかったと思います。

疎開校との関わりは、先生方との職員会議の時ぐらいで、あまり疎開先の方へ行く余裕というものが無くて、学校内で結構勤労奉仕とか何かで忙しくて。

神谷 職員会議は一緒にやっていたんですね。

鹿島 2回くらいでしょうか。

1学期に1回くらい、一緒に合同でやりました。

加藤吉 国でやっていた縁故疎開ってありましたよね。

綾瀬にも、相当な数の方たちが来られ、そのため学級の数が増えたんじゃないでしょうか。

鹿島 初め52〜53人の学級でしたけれども、戦争が激しくなり19年などは68人くらい教室に入りました。
最盛期は70人をはるかに超えていました。

もうとてもとても教室なんて、歩くところもないくらいに、理科の実験室の机なども用意しまして、縁故疎開の子どもは随分増えていました。

加藤吉 縁故疎開の方たちは、終戦と同時に自分のところに帰られたとか。

それで縁故疎開が解消したのは、もっと後のことでしょうか。

鹿島 そうですね。

縁故が解消したのは大分後だと思いますね。

あと、昔の中学校・女学校という所に行かれるために帰られたと言っんですけれど。

2・3年は居られたみたいです。

食糧事情もありましたので、そういう所(親戚など)にお住まいになっってらっしやっった。

加藤吉 先生方の数は増えないで。

鹿島 67、68名はね、どなたも受け持っっていた。

池田武 戦時になりましたね、体育などについての指導要領が改正されたんだね。

いつ改正したかっっていうこと、全然分かりませんけど。

その中に、戦時中ですから、「体力を鍛えなきゃいけない」という趣旨のもっでしょう。

女子は薙刀(なぎなた)、男子は剣道、それに相撲が入ってきた

んですがね。

それと水泳が入っただんだね。

水泳すると言っただって、プールは無いでっしょう。

鹿島 相模川まで歩いて行くんですよね。

池田武 相模川まで、4年生以上の生徒を引率して行きましたよ。指導要領の1年生の最初は「ふせ面」って言ったと思うね、確か。

金盥(かなだらい)へ水を入れて、水に慣れさせるために、顔をつけさせる。

そんなのが最初で、大きくなるとクロールとか何とか。

加藤マ 「目をつぶっちゃいけない。目をつぶっちゃいけない」って、よく子どもに言いましたよ。

池田武 暑い最中にね、当直日誌に何月何日に水泳とか出ていると思っんですけれども。

それもね、継続してちゃんとやらないんだよね。

1回か2回ぐらい相模川へ行っただような気もする。

2回ぐらい行っただかな。

ところがね、綾瀬の子は川では泳いでいるかもしれないけれど相模川のような幅が広いとね、みんな恐れをなして誰も入っ



体錬科(剣道)の授業

てくれないんだよ。

ほとんど入んなかったね。

先生方も駄目なんだよ。

実際泳いだのは、極端に言えば私だけぐらい。

鹿島 鵜沼から来ていた 葉さんって。

葉さんだけがね、泳いだね。

池田武 あとの人は見物だ。

生徒自体も、ちよつと入ってふせ面や何かはやったかもしれないけれど、泳ぐまではやんなかったと思う。

確か。

鹿島 泳いでしまうとね、疲れて学校まで帰って来れなくなってしまうの。

加藤マ よく遠くまで行けたね。

相模川まで歩いて行って、また、歩いて帰って来るんですものね。

比留川 往復ね。

鍛錬にはなつたでしょうけどね。

大変だったなあ。

池田武 校庭の北側に土俵を築いて、高座7校の相撲大会なども開きましたね。

座間が一番強くてね。

座間の何とかという生徒がでかくてね。

2番目が私の方の綾瀬だった。

今健在ですけど、小園の栗原重利さん、役場に出ていたあの弟が強かった。

そんなこともやりましたね。

戦時中、勝つ、勝たんがために、勝つたためにということを目標にね。

色々な面で変わって来まして、民主主義でないから、不平不満などを言う者は無いわね。

比留川 8月15日に玉音放送を聞いた時に、綾瀬小では職員室の隣に宿直室があつて、「宿直室へ集まれ」という事で先生方皆さん時間に集まつてね。

そこでラジオの放送を聞いたんですけど、声はつきりしなくて、あの時池田先生はおられたかね。

池田武 応召している。

比留川 あの時、疎開の先生方は来ておられたのかね。

綾瀬小の職員だけだったかね。

疎開の先生がたは子どもが居るからね。

綾瀬小まで召集できないからね。

鹿島 池田重雄先生が、ほんとに号泣なさったね。

比留川 ガーガー言つて、正直のところ、中身がね。

あんまりよく分かんなかったよね。

池田重雄先生、一番最初に大きな声で泣き出されてね。

感極まっちゃったのかね。

あん時、諏訪の先生は居られなかったのかな。

鹿島 いらしやらなかった気がしますね。

池田武 池田重雄先生は張り切っていたからね。
がっかりしたんでしょう。

清田 当時は、ラジオなんて学校ぐらいにしかなかったんです
か。

鹿島 そうですね、村でも何軒かでしょうね。

池田正 ラジオは、分校にはあつたんですか。

加藤マ うちの分校はなくてね。

一番近い家に情報を聞きにやつたんです。

それで、1回聞きに行った時、「飛行機がもう相模湾に入っちゃっている」と言つたんですよ。

ミヨ子(当時・片野)先生が、「今から帰したら危ないから、防空壕に入れましょうよ」と言つて防空壕に入った時に、1人の子が居ないのよ。

それで困っちゃって「あの子帰っちゃったのかしら」って心

配していたらね。

誰も来ないからびっくりして戻ってきたのね。

良かったと思いましたよ。

そしたらね、「先生あの子大丈夫だよ、普段でもね、どうか早く潜っちゃうとかね、臥せっちゃうえば良いと始終言っているから、大丈夫だよ」と言つたけど、心配しましたよ。

清田 綾瀬小に全員の先生が集まったわけじゃないんですね。

全員 そうですね。

清田 なおさら疎開の先生が、そこに来ている可能性はなかったんですね。

鹿島 記憶はありませんね。

加藤マ 私疎開のことだね、諏訪の子の運動会の時、綱引きの行儀の良かったのだけは、今でもはっきり憶えていますよ。

普通ワッショイワッショイやって、お尻上げちゃったり列から出ちゃったりするのだけれど、諏訪の子はちゃんともう交互に引つ張つてね。

みんなお尻を下げて、あんなに訓練が出来ているんだなと思つて。

あの運動会の時、それだけ記憶にあるね。

神谷 それは諏訪の生徒どうしでの綱引き。

加藤マ そうです。

向こうの綱引きだけだね。

うちの方の子(1年生)にやらせると、段々お尻が上がっちゃって、もうワッショイワッショイ掛け声は一緒になっちゃうんですよ。

けど、もうきちんとね、お尻を下げて交互に引っ張ってね。

「ああにやるものなんだな」と思って。

諏訪の子に教えられましたよ。

神谷 運動会はそうすると合同といっても、例えば種目はもう別々にやったわけですか。

加藤マ 別々にやっていましたね。

神谷 じゃ綱引きだとか徒競走も同様ですか。

鹿島 徒競走もね。

だけど一緒にはやんなかったね。

鹿島・加藤マ だけど、会場だけは一緒だった。

神谷 徒競走のほか、どんなのをやったか覚えていますか。

鹿島 建国体操なんてありましたね。



体錬会(運動会)の様子

比留川 服装ですけどね。

あの当時の綾瀬の子どもは、ほとんど着物だね。

洋服なんて着ている人はなかったけど。

諏訪の方の子は洋服をかなり着ていて、「やっぱり横須賀の子かな」というような感じでね。

綾瀬は洋服を着ている人は、さっきの7つボタンの子くらいで、その前は洋服を着ている子はほとんどありませんでしたからね。

諏訪の子はまあ見かけると、洋服をある程度着ていたね。諏訪の子で、着物を着ていた子はいたのかな。

鹿島・加藤マ・宮崎 いなかったと思います。

宮崎 諏訪は、横須賀でも、わりと大きなお店とか商人とか、そういうお家の方が多かったようです。

神谷 二部授業ですから、諏訪の子どもたちはお昼を食べてからこつちに來たんですよ。

20年の4月以降はもうほとんど來なかつたわけですか。

宮崎 20年なんて、ほとんど出てこなかつたと思います。

鹿島 少しはお見えになつたかしら。

神谷 20年になると、もうこつちの綾瀬小学校自体も初等科の授業がなくなつて、子どもたちはほとんど學校に來たら直ぐ勤

勞奉仕に行った訳ですよ。

鹿 島 3年生ぐらいまでは授業をしてね。

5・6年生が草むしりとか奉仕に行きましたけど。

神 谷 20年の4月以降も二部授業の形はとっていたんですか。

鹿 島 とっていましたね。

宮 崎 どれくらいまでだったでしょうかね。

鹿 島 空襲が激しくなりましたから、学校まで来るのは大変なので、校長先生のお計らいで、疎開校は向こうで授業をしてくださいとなったのかも知れませんがね。

本校まで来ると、途中が野原ですからね。

そこで空襲があつたり何かすると本当に隠れようもなくなってしまうのでね。

それでお止めになったんじゃないかね。

本校に来るといふ事をね。

池田武 見上市長さんもね。

当時高等科で受け持っているんですよ。

もし当時の事を聞かれたらね、多少あの人のことだから記録を持っているかもしれないな。

確か夜学にもきていますわ。

あのクラスだと思つたな、夜学をやつたのは。

比留川 宮崎さんのお父さんは、記録を見ると学務委員という肩書きだけでも、あの当時村役場の職員で、今でいえば学校教育課長のようなものかな。

宮 崎 何でもやっていたみたいでした。

池田武 学事関係のことをやっていたのかもしれないな。

学事係だったかも知れないよ。

あの頃は学事係って言っているんだな、確か。

宮 崎 戸籍謄本をね、取りにいらつしゃるとパタッと開くんで

すつて、その取りに来られた方のものが。

それだけは自慢していましたね。

「役場の加藤さん」で通っていましたから。

これは違う話ですが、三笠宮様と高松宮様が早園分校にいらしたのは記録に残ってますか。

疎開ではないですけども、お見えになつてね。

その当時、飯田広枝先生が青年学校長さんで、私が青年団の方やつていまして、柏木さんと山田八ツさんと3人でお給仕にでた事があります。

それ何時だったか。

鹿 島 それはね、人手が足りなくてね。

私も駆り出されて行きました。

宮 崎 終戦前ですから。

高座豚を召し上がりたという事だね。

やっぱり父がお膳立てをしたみたいでしたけど。

三笠宮様とお二人お見えになったんです。

清 田 お二人とも当時現職の軍人で、軍人としての階級をお持ちでしたから。

池田武 学童疎開関係書類の中でね。

疎開児童数調査一覧表がありますが、見出しと内容が違うんじゃないかなあと思うんですけれどね。

どうなんでしょうね。

疎開児童という場合、諏訪小学校のことだろう。

ところがこの内容をずっと見るとね、本校の初一・二・三、初四が二組とずっと見ていくとね、綾北初一・二・三、早園初一・二・三、吉岡初一・二・三、上土棚初一・二・三こう出ていますよ。

明らかにこれはね、疎開児童ではなくて本校(綾瀬小学校)児童の数だと思うんですが。

解釈はどうでしょうか。

清 田 たぶん池田先生が言われた通りなんです、これは未完成的の資料のようです。

下に机と腰掛けの数を入れる欄があつて未記入なんです、これは生徒の数と机の数を調べて、疎開児童がどの程度受け入れられるかを調査した資料みたいなんです。

その第一段階として、生徒数を入れてみたようなんです。ただこれは未完成で、その次が宿舎をどうしようかっていう

資料、これも未完成ですが。

その中に例えば中村地区もちゃんと調べていますけど、結局中村には児童は来なかったんです。

池田武 こうじゃないかと思うんだね。

本校児童はこうだ。

だから机や腰掛けの余裕はあるのかなのか、何てことを調べたんだろうと思う。

清 田 だから一番下に余裕と書いてありますね。

比留川 これ大矢喜三郎校長さんの書体で懐かしいんだけど、自分でみんなこういう事をやられたんだ。

池田武 ほとんど自分でやってらっしゃいましたから。

疎開児童関係には、ほかの先生はほとんどタッチしないわね。私にすると、校長さん1人でもって抱えてやってらっしゃった、という感が深いね。

私も多少働いていますけどね。

比留川 まあ字も達者な人だったからね。

清 田 じゃ、ほとんど大矢先生の字なんですね。

池田武 全部が、大矢校長の文字です。

他の者の手は入っていません。

全部自分でお書きになった。
だから順序なんてもね、狂ってるわな。
年月日順になってないわな。

神谷 長時間にわたって色々とお話をお聞きして参りましたが、予定の時間となりましたので、今日はここで終わりにさせていただきます。

最後に、所長より一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

金井 色々貴重なお話をいただきありがとうございました。
今日のために出向いて調べてくださったり、多方面に情報を求めてくださったことに心から感謝申しあげます。

これをもとにして、研究所の方では学校や市民の皆様さんに役立つような資料をつくっていきたいと考えております。

これから、お尋ねする事があるかと思いますが、また力を貸していただければ幸いです。

今日は、本当にありがとうございました。

座談会は、一部内容を省略し編集させていただきました。

【参考文献】

綾瀬市教育史 年表編・資料編1
昭和19年度當直日誌 綾瀬村国民学校
綾瀬市史4 資料編 現代
綾瀬小学校創立百周年記念誌 くすのきとともに
神奈川県教育史 通史編
横須賀の学童疎開
神奈川大和教育史

座談会や資料の中で明らかに訂正を必要とする部分は一部修正しましたが、原則的には対談者等の表現を尊重するようにしました。